

漂流

青木 由弥子

あなたは窓を着て

ドアを着て

家を丸ごとひきつれて立ち去っていった

透き通ったゴムのような板壁が

何重にも私たちの間を隔てている

音は海底よりも重く

カーテンは閉ざされたままだ

私は吹きさらしの野に立っている

ナナカマドが燃え盛り

蒼い陽炎が一面に立つ

陽射しが金の覆輪を葉の縁に焼きつける

のっぺらぼうの子どもたちが

葉陰から現れ

私を崖の上に連れて行く

褐色の大地が広がっている

芝草は枯れ

地表は亀甲にひび割れている

あなたを呑みこむために大地が深く裂けていく

断ち割られた花崗岩が

鮫の歯のように体を噛み砕いていくのを

私は見届けねばならない

大地のしずくを得るために

あなたは百度も溶岩流に身を投じた

押し流されたあなたのむくろは

海百合の茂みに辿り着く

私は胸乳を搾りかける

白い泡の子どもたちが

体を包んで海上に運ぶ

あなたは目覚め

月下の海を岸に向かう

なぜ

この柔らかな場所に留まれないのですか

あなたが引き裂かれる叫びを聞くのは

身を切られるよりつらい

私の声は波間によどみ

溜まり渦巻き

海を渡る風がちりぢりに運び去る

私は白い流水の上で

立ち去っていく背中を見ている

流水は黒い海の上を漂い

幻日が私を取り巻いている

影を奪われた場所で

黒い穴を見つめながら

あなたが息を継ぐために現れるのを

私は

静かに待ち受ける